# ストーマ造設患者の継続看護を考える

12階東　○滝沢信子　細田　板垣　鶴野　杉山　白岩　山下
村山　大窪　猿田　新田　松沢　芹川　下和田
高橋（牧）朝倉　重松　魚住　高橋（郁）大渡　阿部

## はじめに

当病棟では、数年に渡りストーマケアに携わっており、病棟内でのケアは一応確立されたと思われる。しかし、退院後もストーマトラブルで病棟に相談に訪れる患者が多く、入院中のみならず、社会復帰後の継続看護が必要であると感じた。

そこで私達は、外来看護婦と患者にアンケート調査を行うことにより、退院後のストーマケアの現状を把握し、社会復帰後のストーマケアがどうあるべきかを考察したのでここに報告する。

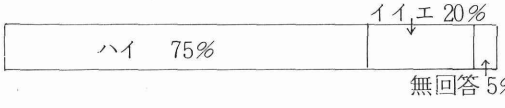
## ＜研究方法＞

1）期間：平成2年9月10日～11月25日
2）対象：①昭和61年5月～平成2年7月迄のストーマ造設者（24名）
②泌尿器科、外科外来看護婦（8名）
3）実施：①退院後のストーマ造設者にアンケート調査を施行し、意見・希望を把握する。
②外来看護婦にアンケート調査を施行し、ストーマケアに対する意識を把握する。

## ＜アンケート結果＞

患者用アンケート結果（回収率67%）

Ⅰ　あなたは、退院後ストーマの事で何か困ったことがありましたか。




※Ⅰでハイと答えた人のみ

(1)　それは、具体的にどのような事ですか。
- 尿もれ
- 皮膚の荒れ・かぶれ
- パウチと台紙のはずれ
- パックが皮膚に合わなかった
- 体型の変化
- ストーマの狭窄
- 台紙がはがれにくい
- 感染症
- パックの種類の選択
- 取りつけ方
- ストーマにスプリントカテーテルが入っている。

(2)　それをどこかに又、誰かに相談しましたか。

| ハイ | イイエ | 無回答 |
|---|---|---|
| 45% | 25% | 30% |

(3)　それらは、どこに相談したらよいか御存知ですか。

| ハイ | イイエ | 無回答 |
|---|---|---|
| 25% | 38% | 37% |

(4)　あなたは、それにどのような対処をしましたか。
- 自分なりに　20%
- パウチを変えた　13%
- 何もしていない　7%
- 検討中　7%
- 外来・他の看護婦へ相談　7%
- 同病患者へ相談　7%
- オストメイト会へ相談　7%
- 病院売店・メーカーへ相談　7%
- 無回答　20%

(5)　そのトラブルは、解決できましたか。

| ハイ 33% | イイエ 29% | 無回答 38% |
|---|---|---|

アンケートⅠより、退院指導を行っているにもかかわらず、ストーマケアについて何かしらの問題や悩みを抱えている人が7割も占めていることがわかる。その内容としては、尿もれ、皮フかぶれによるスキントラブルが多く、(2) (3) より、それをどこに相談したらよいかわからない人が多い。又、(4) (5) より、正しい対処方法がわからない為、問題を抱えたままの人が多いと思われる。実際退院後、パック交換やトラブルの相談の為、病棟を訪れる患者も多い。しかし、病棟ではその為の時間を持つことは難しく、充分に対処しきれないのが現状である。又、このように病棟や他の医

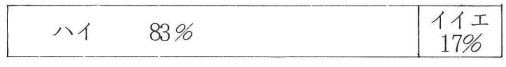
療従事者に相談している人は、ごく一部であることがわかる。

II　ストーマ用装具についての情報は、どこから得ていますか。

- 業者　42％
- 病院　25％
- 得ていない　12％
- 互療会　4％
- 友人　4％
- 患者　4％
- 無回答　21％

業者から情報を得ている人が最も多く、病院からという人は約1/4である。又、退院後、装具その他に関して新しい情報を得る機会を全く持たない人もいる。

III　ストーマ造設者に対する福祉制度を御存知ですか。

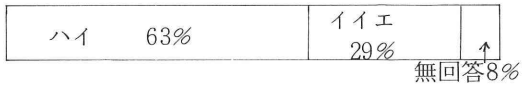



IV　それを誰に聞きましたか。

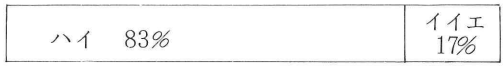
- 病院　29％
- 看護婦　8％
- 保健相談室　8％
- 患者同志　8％
- 福祉事務所　8％
- 業者　3％
- 互療会　3％
- 役場　3％
- 無回答　25％

IIIでは、ハイと答えた人が83％にも達したのに対し、IVの病院での割合は29％と少ない。これは、当病棟の退院指導の有り方について反省すべき点である。

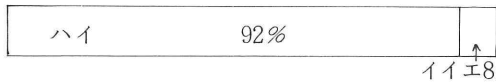
V　装具補助金を受けていますか。



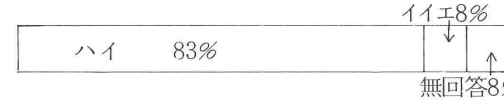

VI　病院でもっと福祉について説明が必要ですか。




VII　ストーマ専属看護婦・ストーマ外来を設置する必要がありますか。




VIII　外来でも積極的にストーマ看護をして欲しいですか。




IX　ストーマ看護を受ける為、今後看護婦に望むことがありますか。

（病棟へ）

- 看護婦不足である
- 退院後、色々な対処の仕方を教えて欲しい。
- 必要時、パックを病棟より分けて欲しい。

（外来へ）

- 外来看護婦もストーマに対する知識を持って欲しい。
- 悩みを聞き、指導してくれる人が欲しい。
- 受診の際、尿もれ等の応急処置の備えが欲しい。
- 患者に合うパックをそろえて欲しい。
- ストーマ外来を作って欲しい。

（共通）

- 気軽に相談できる所が欲しい。
- 日常生活の指導を充分して欲しい。
- ストーマ患者の悩みを幅広く理解し適切な指導をして欲しい。
- ＥＴが居ればよい。
- 安心して相談できる場所（部屋）が欲しい。
- 退院後、互療会のような会があることを知らせて欲しい。
- ストーマ製品の選択期間がもっと欲しい。

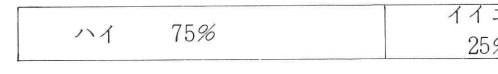
VI～IXより、患者は安心して、ストーマについて相談出来る人・場所を望んでいることがわかる。又看護婦にもあらゆることに対処できる幅広い看護を求めている。さらに、互療会や福祉制度について入院中説明しているが充分伝わっていないことがわかった。

看護婦用アンケート結果（回集率73％）

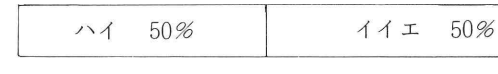
I　患者からストーマについて、相談されたことがありますか。　イイエ　100％

患者用アンケートにおいて「病院・看護婦に相談した」という回答があるにもかかわらず、上記のような回答が得られた。

II　ストーマに関心がありますか。

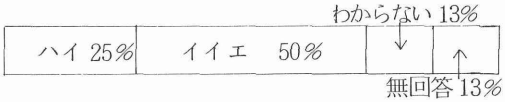



III　診療介助の際、ストーマを意識的に見ていますか。



ストーマに関心がある人が75%であるが、実際、診察介助の際ストーマを意識的に見ている人は半数であった。関心はあるものの実際には、忙しい為に充分関わる時間が持てないのが現状だと思われる。

Ⅳ　将来的に、ストーマ外来のようなものが必要だと思われますか。




Ⅴ　それはなぜですか。

○ハイと答えた方：ストーマ造設者が年々増加している為

○イイエと答えた方：ストーマは病気ではないので病院は定期的な診察だけで充分であり、異常発生時のみ来院し処置や説明をすればよい。むしろ、オストメイト会への加入を勧めた方がよい。

＜考　察＞

私達は、将来ストーマ外来設置を目標に、その初期段階として、以上のようなアンケート調査を行った。その結果、ストーマ外来設置以前に、病棟内で改善すべき点があり、解決できる問題も多いことに気づかされた。術前から退院までストーマケアにかける時間は1人約20時間にも及ぶ。その中でパック変換は7～10回であり、患者自身が行うのは4～5回である。この期間内に、患者はストーマケアをほぼ収得し退院していると私達は思っていたが、実際には退院後に問題が生じている患者が多くいることがアンケート結果からわかった。それは入院生活の中では収得できたと思っていたが、社会復帰後の生活の中で入院時には予測されなかった問題が新たに生じるためであると思われる。

それを解決するために、まず病棟内で改善すべき点として、

○患者のストーマケアの収得段階を確認するためのチェックリストの改善と、それを判定する際の基準の一致。

○入院中に、ある程度ストーマケアを収得できた段階で外泊をすすめ、退院後の生活の中での疑問やトラブルを入院中に解決できるようにする。

○退院時のパンフレットを作成し、その中でこれから起こりえるトラブルへの対処方法や福祉制度の紹介を行う。

これらのことを改善・実践することによって、患者は自信をもって退院し日常生活での不安も軽減されると思われる。

そして、退院後に、ケアの知識の提供の場、新しい装具技術に関する情報の入手の場、精神面では、患者が安心して不安や悩みをうちあけられるカウンセリングの場を持つことが望ましいと考える。私達はまず、先に述べたことを病棟内で実践し、退院後の患者の不安を軽減することに努めるとともに、外来や他部へ働きかけ、問題の解決へと取り組んでいきたいと思う。ストーマを造設することによる患者の不安は、私達が想像する以上に大きいと思われる。その不安をできる限り取り除けるように努力していきたいと思う。さらに私達も患者の多様なニーズに応えられるよう、より一層知識・技術を充実させていかなければならない。

＜おわりに＞

今回の研究で、まず病棟内で改善すべき事が多いということを痛感した。ストーマ外来設置という目標は大きいが、継続的ストーマケアを望む患者の声が多いことをふまえ、私達はこれからも研究を続け、病院全体で取り組んでいかなければならないと思う。アンケートに御協力頂きました患者の皆様、泌尿器科外来、外科外来のスタッフの方々にお礼を申し上げます。

＜参考文献＞

① 前川厚子他　「ストーマとともに」　金原出版
② ストーマリハビリテーション実行委員会　「ストーマケア基礎と実際」　金原出版
③ ストーマリハビリテーション実行委員会　「ストーマケア基礎と実際　改訂第2版」　金原出版